



鹿児島で暮らす
U&Iターナーの声をライブ!

スタートとなる今回は、
東京から日置市に移住した
伊藤さんご夫妻をご紹介します。

テラスで
お酒をたしなむのが
至福の時です

愛犬の“むぎ”と
3人で私たちがらしく
暮らしています

- ⑤ 伊藤 公一さん(61歳/東京都出身)
(株)ウミナリ クリエイティブディレクター・コピーライター
- ⑥ 伊藤 明子さん(46歳/東京都出身)
日置市地域おこし協力隊、(株)ウミナリ プロデューサー

海のようにのびやかでおおらかに響きあう暮らし

緑 の美しいテラスで仕事をし、夕方になると近くの温泉へ。夕食は地元で採れた魚や野菜を焼き火で炙って舌鼓。「楽しみながら暮らす」という長年の願いがかないました」とほほ笑むのは、日置市吉利で暮らす伊藤さんご夫妻です。

東京の広告代理店でコピーライターとして活躍した夫の公一さん。定年後は自然豊かな地で暮らしたいという夢がありました。また、鹿児島出身の両親と長島町で海水浴を楽しんだ記憶から、「鹿児島なら海の近くがいい」という想いも。その夢をかなえるため、同じ会社で働いていた妻の明子さんが日置市へ先に移り住み、約2年半かけて家探しを行いました。そして、吹上浜が目の前に広がる今の家と巡り合いました。

現在は、広告などを手がける会社を明子さんと起業。県内外のクライアントとオンラインで仕事をを行い、充実した毎日です。また、魚釣りが趣味で、近所に住む釣りの先輩と一緒に出かけるのも楽しみの一つだとか。「オンオフの切れ目がないからこそ、ストレスフリーの生活ですよ」と公一さんは表情を緩めます。

いつも海の気配が感じられ、「海鳴り(ウミナリ)」も聴こえてくるすみか。広大な自然の中で、何にもとらわれず、自由に生きることかな暮らしがここにはありました。



住環境

木の香りが漂うログハウス。近くに大きなお店はないが、地元で採れる食材や通販だけで十分だそう。



仕事

「誰かが元気になれるような仕事をこれからもずっと続けていきたい」と話す公一さん。



オフ

愛犬“むぎ”との散歩が日課。東京で車の音を怖がっていた“むぎ”が、移住後はのびのび歩くという。

鹿児島への移住についてもっと知りたい方は、かごしま移住・交流ウェブサイト「かごしまで暮らす」へアクセスを!

かごしまで暮らす

検索

QRコードよりアクセス

